

Cormac McCarthy の *No Country for Old Men* と William Faulkner の *Sanctuary* —アメリカ南部における〈国境〉の有無

大地 真介

1. Faulkner の後継者としての McCarthy

本論文の目的は、Cormac McCarthy の代表作の一つである *No Country for Old Men* (2005) が William Faulkner (1897-1962) の *Sanctuary* (1931) を下敷きにしていることを指摘したうえで、逆に両作品の相違点から浮かび上がってくるものについて考察することにある。6作目の長編小説 *All the Pretty Horses* (1992) の商業的な大成功までは、McCarthy の処女作以外の作品のハードカバーはすべて絶版になっており、極度のインタビュー嫌いも手伝って、彼が注目されたのは比較的最近のことである。このような経緯で McCarthy は日本ではまだ十分には知られていない作家なので、まず彼の略歴を述べておきたい。

McCarthy は、1933年にロード・アイランド州で弁護士家庭に生まれ、4歳からテネシー州ノックスヴィルで育った。テネシー大学を中退し職を転々とするが、処女作 *The Orchard Keeper* (1965) でフォークナー賞を受賞する。その後も南部を舞台にした硬派の純文学の小説群 *Outer Dark* (1968)、*Child of God* (1973)、*Suttree* (1979)、*Blood Meridian or the Evening Redness in the West* (1985) を執筆し、批評家からはある程度評価されるも、売れない作家として貧乏生活を送っていた。ところが一転して次の作品 *All the Pretty Horses* はベストセラーとなって全米図書賞と全米書評家協会賞に輝き、2000年に Billy Bob Thornton 監督、Matt Damon 主演で映画化される。同作品、続く *The Crossing* (1994) および *Cities of the Plain* (1998) で〈国境三部作 (The Border Trilogy)〉を成す。2005年に発表した *No Country for Old Men* もベストセラーとなり、2007年に Tommy Lee Jones、Josh Brolin 主演で Coen 兄弟により映画化されてアカデミー賞の4部門で受賞している。最新作 *The Road* (2006) はピューリッツァー賞に輝き、Viggo Mortensen 主演で映画化された。なお、現在 James Franco 主演・監督で *Child of God* の映画化が進行中である (Friedman)。アメリカの文学研究の重鎮 Harold Bloom は、今日のアメリカ文学を代表する小説として Thomas Pynchon、Philip Roth、Don DeLillo と共に McCarthy の作品を挙げており (7)、近年 McCarthy はアメリカで最もノーベル賞に近い作家の一人とされている (Kellogg)。

Faulkner と同じく南部で育ち成人してからも長年南部に居住した McCarthy の作品と

Faulkner の作品の類似性はしばしば指摘され (Hage 97; Frye, *Understanding* 153)、John Burt は、Faulkner の影響を最も受けた南部作家は McCarthy かもしれないと述べている (317)。McCarthy は、Faulkner を代表とするアメリカ南部の作家たちが紡いできた (南部ゴシック) の流れをくむ作家であり (Hage 150-51)、多くの作品で陰惨な南部を描く。

¹ McCarthy の作品の「登場人物 (貧乏白人、貧農、旧家の末裔) や状況 (近親相姦、殺人、南部貴族の若者の自虐的な悲しみ)」は Faulkner の作品を髣髴させる (Wilson 9: 360)。そして、イタリック体の文章の多用、会話文における引用符の不使用等、McCarthy の文体にも Faulkner の影響が見て取れる (Hage 153)。また、*No Country for Old Men* の文体は「ほとんど Hemingway 的」だが (Frye, “Yeats’s” 17)、基本的に McCarthy は Faulkner のように息の長い文を多用している。なお、越川芳明は、McCarthy がアポストロフィを付けずに “dont”、“aint” 等と書くことについて、「マッカーシー自身がこれまでに開発してきた独自のスタイル」と述べているが (311)、これも Faulkner の文体である。

“There is no such thing as *was*—only *is*. If *was* existed there would be no grief or sorrow” (Meriwether 255) という Faulkner の有名な言葉は、(過去は決して過ぎ去らず、人は過去の総体である) ということを意味しているが、この (過去の現在性) の概念は、McCarthy の作品にも登場し、*No Country for Old Men* でも下記のように繰り返し出てくることを指摘したい。

He [Llewellyn Moss] looked at her. After a while he said: It's not about knowin where you are. It's about thinkin you got there without takin anything with you. Your notions about startin over. Or anybody's. You dont start over. That's what it's about. Ever step you take is forever. You cant make it go away. None of it. You understand what I'm sayin?

I think so.

I know you dont but let me try it one more time. You think when you wake up in the mornin yesterday dont count. But yesterday is all that does count. What else is there? Your life is made out of the days it's made out of. Nothin else. You might think you could run away and change your name and I dont know what all. Start over. And then one mornin you wake up and look at the ceilin and guess who's layin there? (227)

Every moment in your life is a turning and every one a choosing. Somewhere you [Carla Jean Moss] made a choice. All followed to this. The accounting is scrupulous. The shape is drawn. No line can be erased. (259)

I [Ed Tom Bell] think I have sort of waited for all of this to go away somehow or another and of course it aint. . . .

I thought if I lived my life in the strictest way I knew how then I would not ever again have a thing that would eat on me thataway. I said that I was twenty-one years old and I was entitled to one mistake, particularly if I could learn from it and become the sort of man I had it in my mind to be. Well, I was wrong about all of that. . . . So you could say to me that I aint changed a bit and I dont know that I would even have a argument about that. Thirty-six years. That's a painful thing to know. (281-82)

〈過去の現在性〉の概念に関してさらに言えば、“[The] dead have more claims on you than what you might want to admit or even what you might know about and them claims can be very strong indeed. Very strong indeed. You get the feelin they just dont want to turn loose” (158) という Ed Tom Bell の言葉は、“A man will talk about how he'd like to escape from living folks. But it's the dead folks that do him the damage. It's the dead ones that lay quiet in one place and don't try to hold him, that he can't escape from” (453) という Faulkner の代表作の一つ *Light in August* (1932) の言葉を思い起こさせるものである。

2. *No Country for Old Men* と *Sanctuary* のパラレル

前節で確認したように、McCarthy は、作品の文体面においても内容面においても Faulkner の影響を強く受けた作家だが、一種のハードボイルド風犯罪小説である McCarthy の *No Country for Old Men* は、同じくノワール的な Faulkner の小説 *Sanctuary* を物語の下敷きにしていると筆者は考える。なお、ノワールというジャンルに関わっているため、ある意味当然のことだが、両作品とも、大衆を強く意識して執筆されている——*Sanctuary* は「金もうけのために」書き始められ (Faulkner, “Introduction” 176)、*No Country for Old Men* は映画の脚本として書き始められた (Ellis 136)。

しばしば *No Country for Old Men* は、McCarthy 自身の *Blood Meridian* との共通点——特に Anton Chigurh と Judge Holden のそれ——に関して論じられているが (Woodson 8; Cremean 26)、今まで Faulkner の個々の作品と比較されたことはない。せいぜい、Lydia R. Cooper が、*No Country for Old Men* は、Faulkner の *Sanctuary* とは同じノワール小説でも文体が違うと一言述べているだけである (117)。John Burt も、McCarthy は後期の作品では Faulkner から遠ざかっていると主張しているが (317)、次のように *No Country for Old*

Men は *Sanctuary* を下敷きに行っていることを指摘したい。

両作品とも、不気味かつ非情な連続殺人鬼 (*Sanctuary* では Popeye、*No Country for Old Men* では Chigurh) から、彼によって死に追いやられそうな男 (Lee Goodwin、Llewellyn Moss) を救おうとするが果たせない男 (Horace Benbow、Ed Tom Bell) の物語である。Horace も Bell も、先祖代々南部に居住する法に携わる一族であり (*No Country* 123)、また、従軍して渡仏した経験がある。² Goodwin と Moss も、ともに元軍人であり、二人とも法を犯し、結局、「赤毛」 (*Sanctuary* 204; *No Country* 211) の娘 (*Sanctuary* では Temple Drake、*No Country for Old Men* では家出娘) と関わって命を落とす。Horace も Bell も、頼まれもしないのに Goodwin と Moss の妻 (Ruby Lamar、Carla Jean) に接触しつつ彼らを助けようとしている。連続殺人鬼も、作品の最後で、大事件や大事故に偶然巻き込まれて死んだり重傷を負ったりする。また、一連の事件の元凶は、違法のドラッグ (*Sanctuary* では禁酒法下の密造酒、*No Country for Old Men* では麻薬) の取引である。

以上のように、*No Country for Old Men* の物語の大筋は *Sanctuary* のそれと同じであり、この両作品のパラレルについてさらに詳しく見ていきたい。まず、物語の核となる Popeye と Chigurh の本質は同じである。McCarthy は、Chigurh は「純粋な悪 (pure evil)」だと説明しているが (63)、これは、Popeye は「悪の象徴にすぎなかった (He was merely symbolical of evil)」 (Meriwether 53) という Faulkner の説明とぴったり一致する。*No Country for Old Men* の冒頭で、Bell は、その Chigurh の眼に関して下記のように考えている。

They say the eyes are the windows to the soul. I dont know what them eyes was the windows to and I guess I'd as soon not know. But there is another view of the world out there and other eyes to see it and that's where this is goin. It has done brought me to a place in my life I would not of thought I'd of come to. Somewhere out there is a true and living prophet of destruction [Chigurh] and I dont want to confront him. I know he's real. I have seen his work. I walked in front of those eyes once. I wont do it again. I wont push my chips forward and stand up and go out to meet him. (4)

実際、Chigurh の眼は、(魂) や生気のない目をしているが (56)、「ゴムの塊」 (181, 182, 183) と繰り返し喩えられる Popeye の眼も同様である。Popeye も Chigurh も、肌は少し「浅黒 (dark)」であり (*Sanctuary* 182; *No Country* 291)、奇妙なおおいを発している (*Sanctuary* 184; *No Country* 111)。そして二人の行動も似ており、人を殺す際に額を撃ち

抜いたり、ガソリンスタンドで車を止めて喧嘩腰で話をした店員に釣銭を与えたりする。また、二人とも、死の危険の中で「奇妙に落ち着いて」おり (*No Country* 112)、死に慣れ親しんで殺人を重ねる Chigurh は「死の権化」であるという John Cant の指摘は (56)、そのまま Popeye にも当てはまる。Steven Frye は、Chigurh は McCarthy 作品の他の悪人と異なり神話的な人物であると指摘しているが (*Understanding* 160)、Popeye も神話的人物であり、ギリシャ神話のネミの森の王やディオニュソスになぞらえて描かれている (McHaney 224-45; 大地、『『サンクチュアリ』』 72-77)。なお、「原作の雰囲気には忠実」と言われ、McCarthy も気に入っている *No Country for Old Men* の映画版では (Frye, *Understanding* 189; Scott)、Chigurh の服装は、Popeye のそれと同じく黒ずくめである。

No Country for Old Men と *Sanctuary* のパラレルのもう一つの重要なポイントは、両作品における〈父〉の不在である。人道的に極めて問題のある黒人奴隷制度を採用していた旧南部では、奴隷制度を支えるものとして父権制が確固として存在していたが、その父権制も、南北戦争での敗北による奴隷制度の廃止によって根拠を失い (Wilson 13: 106, 203)、また、女性や子供を守るはずの〈父〉の権威は、南北戦争での敗北自体によって揺らぐこととなった。このような南部の社会状況を反映する Faulkner の多くの作品では、父親が無力だったり、父親が不在だったりするが、McCarthy の多くの作品でも——*The Orchard Keeper* の Kenneth Rattner、*Outer Dark* の Culla Holm とその父、*Child of God* の Lester Ballard の父、*Suttree* の Cornelius Suttree の父、*Blood Meridian* の主人公の父、*All the Pretty Horses* の John Grady Cole の父、*The Crossing* の Billy Parham の父のことを考慮すれば明らかのように——実質的に父親は不在である。

Sanctuary と *No Country for Old Men* もその例外ではない。*Sanctuary* においては、Benbow 家の父権が地に堕ちており、Horace の義理の娘 Little Belle は、Horace のことを父親扱いしておらず、彼に男性関係を注意されると、“What business is it of yours who comes to see me? You’re not my father. . . . Shrimp! Shrimp!”と述べ、妻 Belle に駅までエビを取りに行かされている Horace を侮辱している (189)。また、Horace は、Belle から逃れようとして家出をするが、結局 Goodwin が殺されることを防ぐことができず家に戻っており、完全に Belle の尻に敷かれることが暗示される (Arnold and Trouard 235)。*No Country for Old Men* では、Bell 家の〈父〉が不在である。Ed Tom Bell の父は、無力な〈父〉であり、大学も中退し、また、名誉ある保安官の一族に属しながら保安官になれなかった。作品の最後で、Bell は、父が父親の役目を果たす夢を見るが、あくまで夢の中の出来事であり、Bell は、父は自分より劣る人物だったと述べている (308)。そう言う Bell は、そもそも子供がおらず、父でさえない。ただし、助けを拒絶されているにもかかわらず Moss や

その妻 Carla Jean を命がけで救おうとするのは保安官の仕事の域を超えており、彼らの父親的な役目を果たそうとしているといえるが、結局二人を守ってやれず、二人とも殺害されている。

以上みてきたように、*Sanctuary* においても *No Country for Old Men* においても、Popeye や Chigurh といった「純粋な悪」から、弱き者 (Goodwin 夫妻や Moss 夫妻) を守ろうとする Horace や Bell といった〈父〉は無力なのである。*No Country for Old Men* の題名の “old man” には、「老人」だけではなく「父」という意味もあり (*Webster's*)、したがって、*No Country for Old Men* という題名は、「〈父〉のための国にあらず」ということも意味し、同作品の〈父〉の不在のテーマを前景化しているといえる。

3. *No Country for Old Men* と *Sanctuary* の相違点

前節で論証したように、*No Country for Old Men* は *Sanctuary* を下敷きに行っているが、両作品には相違点もあり、それは、*Sanctuary* に比べて *No Country for Old Men* は、より混沌とした南部を描いているということである。まず、南部人を殺しまくる Chigurh は、同様な Popeye よりもさらに過激かつ不気味な殺人鬼として描かれている。Popeye の生い立ちや経歴は作品の最後で明かされているが、Chigurh の過去は全く不明である。また、警官殺しの罪に問われる Popeye は実は殺していないが、Chigurh は実際に警官を殺している。そして、Popeye は結局死刑に処せられるが、Chigurh は逮捕されることさえない。

一連の事件のさなか、*Sanctuary* の登場人物たちは、南部という限られた空間で行動するが、*No Country for Old Men* の登場人物たち——Moss、Carson Wells、メキシコの麻薬密売人たち、Chigurh——は国境を越えて南部を出たり、あるいは入ったりする。なお、Chigurh は、彼を目撃した少年の証言によればメキシコ人ではない可能性もあるが (291)、「外国のオーデコロンのような匂い」(111) がすることと Chigurh という名前によって少なくとも外国人であることがほのめかされており、映画版ではスペイン人の Javier Bardem によって演じられている。

Harold Bloom は、McCarthy が Faulkner から受け継いだものの一つは、「南部社会の暴力」を描くことだと指摘しているが (9)、その点に関して両作家には違いもある。Faulkner の作品中で南部人に暴力をふるう人物は、南北戦争時を除けば、同じ南部人である。すなわち、*The Sound and the Fury* で Benjy Compson を去勢するのは兄の Jason、*Light in August* で Joe Christmas を去勢して殺害するのは Percy Grimm、*Absalom, Absalom!* で Thomas Sutpen と Charles Bon を殺すのは、それぞれ Wash Jones と Henry Sutpen、*Go Down,*

Moses で Tomasina に対して近親相姦を犯すのは Lucious Quintus Carothers McCaslin であり、そして *Sanctuary* において、Temple をレイプし、Tommy や Red を殺害し、Goodwin を死に追いやるのは、Popeye という南部人に他ならない。一方、McCarthy の *No Country for Old Men* では、Carla Jean 等多くの南部人を殺すのは、外国人とおぼしき Chigurh であるし、以前パトロール中の Bell の命を脅かし、また、Moss を殺害するのは、メキシコのギャングである。つまり、*No Country for Old Men* では、南部人に暴力をふるうのは、国境を越えてやってくる犯罪者たちであり、したがって、*No Country for Old Men* という題名の “no country” は、〈国境〉の消失を暗示しているともいえる。

4. 南部における〈国境〉消失

前節で論考したように、*Sanctuary* に比べて *No Country for Old Men* は、より混沌とした南部を描いており、その南部の混迷化は、犯罪者たちが国境を越えて南部にやってくる——南部における〈国境〉の消失——と深い関係がある。実際、不法入国するメキシコ人が後を絶たない状況は、現在アメリカが抱える最も深刻かつ複雑な問題の一つである。Faulkner は、閉鎖的な南部で苦難の道を歩む人々を描いたが、McCarthy は、〈国境〉が消失した南部で苦闘する人々を描いている。詳しく言えば、Faulkner は、〈国境〉内で混迷する南部、すなわち南北戦争での敗北によって人種・階級・ジェンダーの境界が消失する南部をあからさまに描いたが（大地、『響きと怒り』248-63）、McCarthy は、Faulkner の次の段階として、〈国境〉という境界も消失した南部、つまり、より混沌とした南部を描いているのである。

なお、誤解のないように付言すれば、Faulkner と同様 McCarthy は、混沌とした世界をよしとしているわけではない。*No Country for Old Men* という題名が示唆するように、アメリカという〈国〉では倫理が十分に機能していないという〈老人〉Bell の嘆きが本作品の基調を成している（Frye, *Understanding* 157）。Edwin T. Arnold も述べているように、McCarthy の作品には “a profound belief in the need for moral order” がある（44）。*Blood Meridian*、〈国境三部作〉、*No Country for Old Men* 等の McCarthy の主要な作品は、ボーダーレスをテーマとしているが、単純なポストモダンの小説ではない。脱中心化されて秩序のない世界を称揚するのではなく、そのような世界でいかに生きるべきか、いかにして生き抜くかということに重点を置いているのである。

以上考察してきたように、混沌としたアメリカ南部における人々の苦闘という Faulkner のテーマを受け継いだ McCarthy は南部が〈国境〉を喪失してより混迷の度を深める様を前景化することによって同テーマを発展させることに成功したといえる。

注

1 なお、*No Country for Old Men* の物語の舞台であるテキサス州は、アメリカ西部の一部とされることもあるが、南北戦争の際に南部連合に加わっていたことと地理的な位置関係から通常アメリカ南部に分類される。実際、アメリカ合衆国国勢調査局の分類でもテキサスは南部に属している。

2 Benbow 家は弁護士の一族で、Bell 家は保安官の一族である。なお、保安官は、警察権だけでなく司法権も持つ。

引用文献

Arnold, Edwin T. "Naming, Knowing and Nothingness: McCarthy's Moral Parables." *Perspectives on Cormac McCarthy*. Ed. Edwin T. Arnold and Dianne C. Luce. Rev. ed. Jackson: UP of Mississippi, 1999. 45-69.

Arnold, Edwin T., and Dawn Trouard. *Reading Faulkner: Sanctuary*. Jackson: UP of Mississippi, 1996.

Bloom, Harold, ed. *Cormac McCarthy's The Road*. New York: Bloom's Literary Criticism, 2011.

Burt, John. "After the Southern Renaissance." *The Cambridge History of American Literature*. Ed. Sacvan Bercovitch. Vol. 7. Cambridge: Cambridge UP, 1999. 311-424.

Cant, John. "Oedipus Rests: Mimesis and Allegory in *No Country for Old Men*." King, Wallach, and Welsh 46-59.

Cooper, Lydia R. *No More Heroes: Narrative Perspective and Morality in Cormac McCarthy*. Baton Rouge: Louisiana State UP, 2011.

Cremean, David. "For Whom Bell Tolls: Conservatism and Change in Cormac McCarthy's Sheriff from *No Country for Old Men*." *Cormac McCarthy Journal* 5.1 (2005): 21-29.

Ellis, Jay. "Fetish and Collapse in *No Country for Old Men*." *Bloom's Modern Critical Views: Cormac McCarty*. Ed. Harold Bloom. Rev. ed. New York: Bloom's Literary Criticism, 2009. 133-70.

Faulkner, William. "Introduction to the Modern Library Edition of *Sanctuary*." *Essays, Speeches & Public Letters*. Ed. James B. Meriwether. Rev. ed. New York: Modern Library, 2004. 176-78.

———. *Light in August*. Faulkner, *Novels* 399-774.

———. *Novels 1930-1935: As I Lay Dying; Sanctuary; Light in August; Pylon*. Ed. Joseph Blotner

- and Noel Polk. New York: Library of America, 1985.
- . *Sanctuary*. Faulkner, *Novels* 179-398.
- Friedman, Roger. “James Franco Shooting Cormac McCarthy Movie in West Virginia.” *ShowBiz 411*. 6 Feb. 2012. 7 Feb. 2012 <<http://www.showbiz411.com/2012/02/06/james-franco-shooting-cormac-mccarthy-movie-in-west-virginia?>>.
- Frye, Steven. *Understanding Cormac McCarthy*. Columbia: U of South Carolina P, 2009.
- . “Yeats’s ‘Sailing to Byzantium’ and McCarthy’s *No Country for Old Men*: Art and Artifice in the Novel.” King, Wallach, and Welsh 13-20.
- Hage, Erik. *Cormac McCarthy: A Literary Companion*. McFarland Literary Companions 9. Jefferson: McFarland, 2010.
- Kellogg, Carolyn. “Is Cormac McCarthy Really Headed for the Nobel?” *Los Angeles Times*. 4 Oct. 2010. 30 Jan. 2012 <<http://articles.latimes.com/2010/oct/04/entertainment/la-et-cormac-mccarthy-nobel-sl>>.
- King, Lynnea Chapman, Rick Wallach, and Jim Welsh, eds. *No Country for Old Men: From Novel to Film*. Lanham: Scarecrow, 2009.
- McCarthy, Cormac. *No Country for Old Men*. New York: Vintage International, 2007.
- McHaney, Thomas L. “*Sanctuary* and Frazer’s Slain Kings.” *Mississippi Quarterly* 24.3 (1971): 223-45.
- Meriwether, James B., and Michael Millgate, eds. *Lion in the Garden: Interviews with William Faulkner, 1926-1962*. Lincoln: U of Nebraska P, 1968.
- “Old Man.” *Webster’s Third New International Dictionary*. Unabridged ed. CD-ROM. Springfield: Merriam-Webster, 2000.
- Scott, A. O. “Touch of Evil in West Texas.” *New York Times*. 21 May 2007. 30 Jan. 2012 <<http://query.nytimes.com/gst/fullpage.html?res=9B04E0D61E31F932A15756C0A9619C8B63>>.
- Wilson, Charles Reagan, ed. *The New Encyclopedia of Southern Culture*. 24 vols. Chapel Hill: U of North Carolina P, 2006-.
- Woodson, Linda. “. . . you are the battleground’: Materiality, Moral Responsibility, and Determinism in *No Country for Old Men*.” *Cormac McCarthy Journal* 5.1 (2005): 4-13.
- Woodward, Richard B. “Cormac Country.” *Vanity Fair*. Aug. 2005: 62-65.
- 大地真介、『『サンクチュアリ』における産業主義——ポパイと密造酒業とディオニュソス』、田中久男監修、早瀬博範編『アメリカ文学における階級』、英宝社、2009年、67-81頁。

——、『響きと怒り』の技法とテーマ——人種・階級・ジェンダーの境界消失」、田中久男監修、亀井俊介・平石貴樹編『アメリカ文学研究のニュー・フロンティア——資料・批評・歴史』、南雲堂、2009年、248-63頁。

越川芳明、「^{ボーダーライティング}〈国境文学〉の可能性——コーマック・マッカーシー」、『ユリイカ』1995年10月、308-11頁。